

2

小学校でファシリテーター 〈お困りごと解決会議〉

ミーティング・ファシリテーターとして、以前、ある小学校の教員から「いちど、私の受け持っているクラスで一コマやってくれませんか？」と依頼されたことがあります。おうかがいしたのは五年生のクラス。算数の時間をこんなふうにやってみました。

★〈算数のお困りごと解決会議〉はじまりはじまり

「はい、皆さん、こんにちは。今日、授業を教えてくださいださるのは、青木先生です。先生には算数の授業をお願いしているのですが、算数に詳しいわけじゃないんです。先生が詳しいのは、話し合いの進め方。どんな内容か、楽しみですね。では、青木先生お願いします」と、担任の先生からご紹介。

「皆さん、今日はよろしくお願いします。青木将幸といいます。今日は、皆さんが算数を学んでいて、困っていることを解決するような授業をやってみたいと思います」と切り出しました。

黒板に、〈算数のお困りごと解決会議〉と書きました。

「算数、好きな人、はーい！ ほうほう。ちよつと苦手な人、はーい。おおお、たくさんいますねえ。僕も子どものころ、あんまり算数は得意じゃなかったです。でも、もしかしたら、今日の授業で、皆さんが算数を好きになったり、困っていることが解決するかもしれません」

〈算数のお困りごと解決会議〉の手順

- ① 算数で困っていることを紙に書く
- ② 四人一組をつくって、じゃんけんをする。勝った人から右まわり
- ③ 困っていることを一番の人が話す。残りの人は、どうやったらうまくやれるか？を一緒に考えて、アドバイスをする

「というのが〈お困りごと解決会議〉の手順です。まず、自分が『算数で困っていること』『ちよつとよくわからないこと』『算数の得意な他の子から教えてもらいたいこと』を、配った白い紙に書いてください。算数に関して困っていることだったら、どんなことを書いてもいいですよ」と言って、同じA4判の紙に書いた例示を見せました。

★ 返答の例を示す

「例えば、『小数の割り算をしていると、こんがらがっちゃう』という〈お困りごと〉。小数の割



り算って、ややこしいからね。こう思っている人は、そう書いてOK。あるいは『そもそも、なんで算数なんか勉強しないといけないのか、わからなくて困っている』という人もいるかもしれませんが。もしそう思っていたら、そう書いていいですよ。どんな〈お困りごと〉でも、クラスの仲間たちが一緒に考えてくれます。もしかしたら、算数は得意で、特に困っていないという人もいるかもしれませんが。そのときは『ぜんぜん困っていない^^』と書いてもかまいません。その

人は、困っている他の人に時間を分けてあげてください」

ファシリテーションの分野では、こうやって、質問に対する返答の例を示すことをモデリングと言います。いくつか例を見せることで、「あー、なるほど。こんなことを書いたらいいんだな」という見当をつけてもらうのです。「そもそも、なんで算数なんか勉強しないといけないのか、わからなくて困っている」といったレベルのことまで、書いていいんだ！ということがわかるのです。

★余計な口をはさまず「待つ」

「では皆さん、お手元の紙に、〈お困りごと〉を書いてください」と言って書く時間をとりました。すぐに書き始める子どももいれば、宙をにらんで考えごとをしている子もいます。

こういう時間帯に、私ができるべく気をつけていることは「いつ